

平成 29 年度第 3 回東名古屋医師会地域包括ケア検討委員会 議事録

平成 29 年 10 月 2 日(月)

午後 2 時～

於：東名古屋医師会事務所会議室

出席者(順不同・敬称略)

委員長：笹本 基秀 (東名古屋医師会 会長)

副委員長：牧 靖典 (東名古屋医師会 副会長)

委員：水野 正明 (名古屋大学 総長補佐 教授)

村居 巖 (愛知医科大学 医療相談部)

都築 晃 (藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター) (欠席)

池田 寛 (藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター)

宮脇 利明 (愛豊歯科医師会 会長)

福井 正人 (瀬戸歯科医師会 長久手歯科医会 代表)

平井 佳彦 (瀬戸旭長久手薬剤師会 副会長)

森 道成 (日進東郷豊明薬剤師会 会長)

川本 賀津三 (日進市地域福祉課 課長)

柏木 晶 (日進市地域福祉課 主幹)

横山 英治 (日進市東部地域包括支援センター 主任介護支援専門員)

加藤 知恵美 (日進市中部地域包括支援センター 保健師)

梅原 寛子 (日進市西部地域包括支援センター 主任ケアマネジャー)

井上 隆雄 (長久手市長寿課 課長補佐)

稲垣 道生 (長久手市福祉部長寿課 地域支援係長)

海原 恵子 (長久手市 愛知たいようの杜地域包括支援センター

主任介護支援専門員・看護師)

柴原 里織 (長久手市 愛知たいようの杜地域包括支援センター・センター長)

深谷 美砂子 (長久手市 社会福祉協議会 地域包括支援センター 保健師)

小川 正寿 (豊明市高齢者福祉課 課長)

松本 小牧 (豊明市高齢者福祉課 課長補佐)

田中 貴教 (豊明市南部地域包括支援センター 社会福祉士)

眞野 潤 (豊明市中部地域包括支援センター 主任介護支援専門員)

高桑 民世 (豊明市北部地域包括支援センター 主任介護支援専門員)

近藤 克也（東郷町長寿介護課 課長）（欠席）
杉本 めぐみ（東郷町長寿介護課 介護保険係長）
土井 肇（東郷町地域包括支援センター センター長）
松井 陽典（愛知県瀬戸保健所 総務企画課 主査）（
石黒 孝康（瀬戸旭医師会 在宅医療中核センター コーディネーター）
永井 修一郎（東名古屋医師会）
祖父江 良（東名古屋医師会 副会長）（欠席）
金山 和宏（東名古屋医師会）（欠席）
松浦 誠司（東名古屋医師会）
田貫 浩之（東名古屋医師会）
井手 宏（東名古屋医師会）
木下 雅盟（東名古屋医師会）
嘉戸 竜一（東名古屋医師会）
村井 良則（東名古屋医師会 在宅医療サポートセンター コンダクター）

(1) 委員長挨拶（笹本会長）

- 皆さんもご承知のように、平成 30 年度からは全ての市町村で介護保険法に基づいた在宅医療介護連携推進事業を実施することになっています。この地域では市町村が行う事業として在宅医療・介護連携支援センターを立ち上げていく中で、豊明市と東郷町の地区では保健衛生大学と共同で支援センター「かけはし」を設立して、もう稼働しております。また日進市や長久手市においては、何度か会を持ちまして、当医師会への委託の方向で話が進みつつあります。ただ各行政の考えもあり決定には至っておりません。もう早急に決まって行くと思いますので、決定しましたら皆さんにお知らせします。
- 第 7 次医療計画策定の中で尾張東部医療圏における様々な会議（地域医療推進委員会～福祉推進会議等）が開催されています。地域包括ケアと一体化して、今後の事業を行い、計画を立てていくことになっています。その方向に向けて、この地域の医療～病院のあり方等が話し合われているところであります
- 平成 30 年度に向けて当委員会もこれまで多様な試み～事柄をやってきて成果はありましたが、問題点や不十分なところも見えてきました。そのようなこ

とに向けて、これからもしっかり取り組んで行きたいと思います。ご協力を
よろしくお願いいたします。

(2) 豊明市「いきいき笑顔ネットワーク」の現状について（豊明市委員）

＜資料：電子@連絡帳導入実績（尾張東部医療圏）＞

- ・導入実績：登録機関 165 機関で微増、登録患者数 614 人、記事の累積 11438 件で順調に運用中。

(3) 長久手市「愛・ながくて夢ネット」の現状について（長久手市委員）

＜資料：電子@連絡帳導入実績（尾張東部医療圏）＞

- ・導入実績：登録機関 124 機関、登録患者数 399 人、記事の累積 17276 件で順調に運用中、大きな変化はない。
- ・新規開業のところにも働きかけを行い、参加いただくようにしております。

(4) 日進市「健やかにつしん・ヘルピーネット」の現状について（日進市委員）

＜資料：電子@連絡帳導入実績（尾張東部医療圏）＞

- ・導入実績：登録機関 100 機関、登録患者数 59 人、記事の累積 712 件。
- ・登録機関で特に歯科医師会のご協力により増加しております。
- ・登録患者数の伸びが鈍っているので、効果的な利用方法について継続的に検討して行きたい。

(5) 東郷町「レガッタネット とうごう」の現状について（東郷町委員）

＜資料：電子@連絡帳導入実績（尾張東部医療圏）＞

- ・導入実績：登録機関 60 機関、登録患者数 26 人、記事の累積 755 件、横バイ～微増で運用中。
- ・大きな動きはないが、新規事業所にも案内をして関与していただけるようお願いをしている。

(6) 各市町の 29 年度在宅医療・介護連携推進事業計画と進捗について
（各市町委員）

＜資料：地域包括ケア（在宅医療・介護連携推進事業等）推進組織一覧＞

＜資料：管内市町における在宅医療・介護連携推進事業等の進捗と展望＞

～豊明市～

[推進組織一覧]

- ・ 8月に地域包括ケア連絡協議会を開催。平成29年より第2期となり委員の改選と部会を一度ゼロベースとしてまた新たに立ち上げました。今回は「いきいき笑顔ネットワーク運営委員会」と、新たに「調査研究委員会」を立ち上げました。
- ・ 「調査研究委員会」は、地域包括ケアを進める上でPDCAサイクルを回していく前～プランを作成する前の段階の調査の部分に、もう少し力を入れて行きたいとの事で、調査研究部門にご協力をいただき、地域包括ケアの課題を研究する役割を担っていきます。
- ・ 委員についても、職能団体ができてきましたので団体の代表者となっています。三師会と共に、看護～ソーシャルワーカー～リハビリ～ケアマネの代表として出てきていただく形となっています。
- ・ 組織体制が大幅に変わっております。詳細は資料を参照ください。

[進捗と展望]

- ・ 事業内容は変わっておりません。
- ・ 医療介護サポートセンター「かけはし」について運営委員会～事務局会議を開催。
- ・ 多職種人材育成研修の今年度の日程が決定。

～長久手市～

[推進組織一覧]

- ・ 平成29年4月から医療・介護・福祉ネットワーク運営協議会の下に5部会と特別部会を設けて、各部会の運営をしていくということで進めています。
- ・ ICT部会と特別部会は現在活動していないが、それ以外の4部会については各々テーマを決めて進行中。

[進捗と展望]

- ・ 運営協議会は、次回12月(12/19)に開催予定。
- ・ 研修部会は、多職種連携に係る研修の企画立案、運営を行い、ほぼ毎月開催。今回は10/26に愛知医大のご協力で「嚥下機能について」ご講演いただきます。
- ・ 事例検討部会は、豊明市のやり方を参考に部会準備会を経て、9/20に開催。

今後毎月開催、次回は 10/18 に開催予定。

- ・入退院調整部会は、次回 10/12 に開催予定。今後は退院調整についても近隣の病院にご協力をお願いする予定。
- ・愛・ながくて夢ネット交流会は、各専門職が顔の見える関係づくりをすることを目的として交流会の企画・運営を行う。次回は 10/11 に開催予定。
- ・センター構想等については、医師会と意見交換会を 5/9、6/27、9/12 に実施し相談している。行政の方針としては医師会に委託していきたい。
- ・総合事業としては、一般介護予防事業（通所系）について事業者主体のサロン～介護予防教室を実施、サロン運営事業者と意見交換会を 9/12 に実施。

～日進市～

[推進組織一覧]

- ・前回の報告から組織に変更なし。
- ・詳細は資料を参照ください。

[進捗と展望]

- ・地域包括ケア検討会議は 7/24、9/25 に開催。次回は 11 月開催予定～年 5 回開催予定。
- ・在宅医療介護連携に関する検討部会は、年 3 回開催予定。
- ・医療と介護の多職種連携研修会は、2/15、4/30、7/30 の 3 回開催。次回は 12 月に開催予定。
- ・地域出前講座は、三師会のご協力で認知症に関する出前講座を開催。次回は 10/14 に東山地区で開催予定。
- ・センター構想等については、医師会との意見交換会を行い（5/22、6/26）、在宅医療介護連携に関する検討部会、地域包括ケア検討会議において方向性を協議（7/3、7/24）、医師会への事業委託の方向で協議を進めている。

～東郷町～

[推進組織一覧]

- ・新たに生活支援協議体を追加。実際は平成 28 年度から実施中。
- ・多職種人材育成研修等は豊明市と連携して今後進めて行くため、「豊明市同職種連絡協議会」と「在宅医療を考える会 TOGO」の連携を予定。

[進捗と展望]

- ・地域ケア推進会議は 8/4 に開催、計画の策定に関わる内容について検討。
- ・在宅医療介護連携部会は 10/31 に開催予定。
- ・在宅医療を考える会 TOGO は毎月開催していますが、12 月までに多職種カンファレンスの試行を予定。
- ・日進東郷医療介護連携推進会議ですが、日進市と東郷町の行政、医療機関、地域包括支援センター職員が、医療介護連携について意見交換を行います。12 月に開催予定。
- ・課題～要望等については、新総合事業～短期集中予防サービスの再検討を行うため、町内事業所リハビリ職と事業内容を検討中、概要は決定。そのため一般介護予防事業について再編検討中。

(牧副委員長)

- ・東郷町の医療機関での電子@連絡帳の利用率はどうなっていますか。

(東郷町担当委員)

- ・東郷町内の医療機関における導入率は 83% ですが、積極的に利用されている先生は少ないように思います。まだ電子@連絡帳を使っていない方々のために、9/14 の在宅医療を考える会は「電子@連絡帳の利用の仕方」についての内容で開催しました。利用率の向上のため、今後も同様の内容での開催や個別での説明会等を考えております。

(笹本委員長)

- ・長久手市の事例検討部会はどのような内容で行われているのですか。

(長久手市担当委員)

- ・事例検討部会は、豊明市の多職種合同カンファレンスをお手本にして、包括支援センターの持つ事例を（一事例）1 時間ほどかけて多職種の方に自立支援に向けたアドバイスをいただくという形で検討を行なっています。前回は、認知症になって運転免許を返納しなければいけなくなった状況～今まで運転が生きがだったのに運転が出来なくなった～自宅に閉じこもりがちになってしまった～事例をどの様に対処して行くかを検討しました。メンバー全体が自立支援に向けた方向や方法～考え方について学習する事を目的にしています。

(A委員)

- ・医療機関から医師として参加したのは私だけだったのですが、各市町でもこの様な会議では医師の参加が少ないのが現状です。どの様にして医師の参加を増やしていくのが共通の課題だと思います。今後検討していかなければいけないと思います。

(笹本委員長)

- ・日進市の地域出前講座については、どのような内容で講師はどなたがやられているのですか。

(日進市担当委員)

- ・認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの連携協定ということで、東名古屋医師会日進支部～愛豊歯科医師会日進支部～日進市薬剤師会～行政～製薬会社エーザイの5者で協定を結び、その一環として取り組んでいるものです。昨年度は2地区まわり（高齢化率の高い南ヶ丘地区と五色園地区）、講師は東名古屋医師会日進支部の金山先生と宮川先生にお願いしました。今年度も東山地区から開催の要望があったので、10/14に東名古屋医師会日進支部の恒川先生に講師をお願いして開催予定です。

(A委員)

- ・豊明市の調査研究委員会というのが目につきました。大変面白いと思います。水野先生もかなり評価されていますが、こういうものはあまりないので、他の市町にも作れば良いと思いますがいかがでしょうか。

(B委員)

- ・この委員会は私が面倒を見させていただいておりまして、実は行政の持っている data というのは凄いのですが、ほとんど使われていない～あるいは使い切れていません。この様なところが一つテーマにありまして、このようなものを様々な機関が活用し、市にとって良い形に繋がればということで、研究に使える方向性を考えていきたい。ただ行政の data というのは、何でもかんでも at random に出すわけではありませんので、その研究の質をここで見て、行政と academia 等が合意の上でこの研究を推進しましょうというような方向性を出してみてもどうかと。この様なところで始まったものと理解し

ています。行政の data といのは本当に物凄いものがあって、これがどう上手く活用できるかということは大変大きな課題なのです。これは全国的にもないので、ですからここでは是非上手くやっていただければと期待しております。

(牧副委員長)

- ・補足をしておきますと、長寿研等が豊明市の field で研究したいとの要望があります。同じ field で藤田保健衛生大学も研究をやっているのです、両方 butting しないように調整が必要であるというのが現実的にある。地域を利用するのは良いが「いいとこどり」で、何も成果を渡してもらえないというのは困るので、ということです。

(7) 29 年度在宅医療サポートセンター事業計画と進捗について (C 委員)

< 東名古屋医師会 在宅医療サポートセンター事業計画 (進捗) について >

1. (24 時間 365 日対応可能な在宅医療提供体制の構築を支援)

○医療資源の把握

- ・第 3 回在宅医療の提供と連携に関する実態調査 (県医師会調査) 実施
- ・毎年度実施 (9 月頃)

<< 第 3 回在宅医療の提供と連携に関する実態調査結果 (速報) >>

- ◆調査対象期間 平成 28 年 7 月～平成 29 年 6 月 (1 年間)
- ◆調査実施期間 平成 29 年 7 月 28 日～9 月 4 日
- ◆調査対象施設 156 施設 (全ての会員医療機関)
- ◆回答施設 132 施設 (回収率 84.6%)
- ◆集計結果 (第 1 回・第 2 回調査集計結果との比較)

項目 (抜粋)	第 1 回	第 2 回	第 3 回
患者死亡数	261	254	326
(うち看取り数)	170	182	242
(うち検死数)	5	15	12
在宅患者数	1264	1652	2167
緊急往診数	161	173	294
小児在宅医療提供数	10	14	13
在宅がん緩和ケア提供患者数	77	108	97

- ・「在宅医療実施医療機関」、「在宅医療受入れ薬局」、「訪問看護ステーション」各一覧表（詳細版）作成

○連携推進のための調整会議

- ・地域包括ケア検討委員会開催（原則、偶数月開催）。本日が第3回で、今年度は、あと2回開催予定。
- ・在宅療養支援診療所連携委員会開催（概ね4か月ごとに開催）。第1回は前回報告しました。第2回については9月開催予定でしたが、工事の関係で開催を見合わせて、12月か1月に開催できるように調整。

○その他（将来展望検討等）

- ・資料を参照ください。

2.（在宅医療導入研修を実施）

○認知症初期集中支援チームの効果的運用に関する研修会

（国立長寿医療研究センター委託事業）

（企画・運営：本会在宅医療サポートセンター主催、管内4市町協力）

<<認知症初期集中支援チームの効果的運用に関する研修会>>

日時/12月14日（木）14:00～15:40

場所/日進市中央福祉センター多機能室

対象者/管内各地域の医師、歯科医師、薬剤師、地域包括支援センター職員、自治体職員等～80名程度～

内容（案）/

テーマ（仮）/認知症の方を地域で支援するために多職種で何ができるか？～認知症初期集中支援チームの効果的な運用に向けて～

第1部

- ①豊明市における認知症初期集中支援チームの活動状況報告
- ②テーマに沿ってグループワーク実施

第2部

- ①基調講演/認知症初期集中支援チームを活用した地域連携（仮）
講師/国立長寿医療研究センター（副院長）鷺見幸彦氏
- ②グループワーク発表、講評

○介護保険制度に関する研修会

<<介護保険制度に関する研修会>>

日時/未定（2～3月を予定）

場所/医師会事務所会議室

対象者/会員医療機関の医師～スタッフ他

内容等/今後検討

趣旨/平成30年4月に診療報酬と介護保険の同時改訂が予定されていることから、在宅医療との関わりが深い介護保険制度について、改正内容を含めて理解を深める。

講師/あすわひのきケアプランセンター代表 下鶴紀之氏

3.（かかりつけ医普及啓発講習会を実施）

○かかりつけ医普及啓発講習会

- ・未定（管内自治体又は中核センターとの共催等検討後実施予定）

○東名古屋医師会市民公開講座（本会事業）

- ・日時：平成30年2月25日（日）午後2時から
- ・場所：長久手市文化の家（風のホール）
- ・内容：とっておきの長久手、紹介します！！（仮）

4.（在宅医療に関する相談窓口を設置）

○広報・PR、相談窓口

- ・サポートセンターホームページ等内容充実（各種委員会議事録、講演会・研修会開催結果等掲載）。

→東名古屋医師会（在宅医療サポートセンター）ホームページを参照ください。

- ・パンフレット印刷、講演会等で配布「ご存知ですか？在宅医療 ～いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていくために～」。

（8）29年度尾張東部中核センター事業計画と進捗について（D委員）

<資料：中核センター事業>

～29 年度事業計画～

ア（後方支援病院の確保）

○施設と病院との連携に関するアンケートの実施

- ・ 目的：緊急入院依頼時の現状等の把握～病院等との連携の強化
- ・ 対象：在宅患者訪問診療料対象施設（養護老人ホーム、特養、サ高住グループホームなど）

→内容は別添資料を参照ください。

イ（退院調整機能の構築）

○退院調整実務者の連携（病院間の連携）

- ・ 退院調整看護師、ワーカー等による連携会議の開催
- ・ 研修（講演）会の開催

○病院スタッフ・在宅医療支援スタッフの連携（病院と在宅の連携）

- ・ 講演、パネルディスカッション

○在宅医療に関わる多職種連携（在宅関係者の連携）

- ・ 講演、パネルディスカッション

（各職種における在宅医療への取り組み状況、課題等の発表等）

※研修会/講演会は 10/6 の運営協議会で実施案を検討予定。

○レセプトデータの分析ほか

- ・ 退院共同指導の取組、在宅移行の動向把握
- ・ 医療と介護の連携の把握

※退院調整に係るレセデータの分析～病院照会等の実施/退院時共同指導等の取り組みの現状把握/在宅移行の現状把握/在宅医療に係るレセデータの抽出に向け関係機関、保険者と調整～現在進行中。

→内容は別添資料を参照ください。

ウ（在宅医療導入研修及びかかりつけ医普及啓発講習会開催の支援）

- ・ サポートセンター事業の支援

エ（在宅医療連携システムの互換性等の確保）

- ・ 合意書締結によるネットワークの広域的活用状況の検証

※平成 28 年度中における電子@連絡帳の広域的活用による患者支援の状況

→内容は別添資料を参照ください。

別添資料 高齢者向け住まい等（「在宅」とみなされる施設）と病院・クリニック

との連携に関するアンケート調査結果 〈最終版 概要〉 (H29. 8. 10)

別添資料 入退院の動向と退院時共同指導の取り組み (中間報告)

別添資料 尾張東部医療圏内の病院における退院前カンファレンスの取り組み状況 (H29. 7. 31)

別添資料 在宅医療に係る主な抽出予定診療行為等一覧 (H26～H28 年度)

別添資料 電子@連絡帳の広域的活用による患者支援の状況 (H29. 9. 11)

(9) 豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」の事業進捗について
(E 委員)

＜資料：平成 29 年度 豊明東郷医療介護サポートセンター 事業報告書＞

- ・ 7/2 に開所式を行い、7/3 からオープンしました。
- ・ 3 か月を経過して、見学～来訪者は 7 月 95 名、8 月 79 名、9 月 30 名でした。相談件数としては 43 件(7～9 月)でした。
- ・ 内容は、中心となる「訪問診療医の紹介」～「訪問歯科診療」～「訪問薬剤指導」等の直接的な紹介はまだなくて、「事業所～医療機関等の関係調整」や「地域で訪問してもらえるリハビリは？」等の在宅医療～介護保険についてご相談をいただいています。
- ・ 8/31 に第 1 回豊明東郷医療介護サポートセンター運営協議会開催、今後は年 2 回を予定 (6 月、11 月)。本年度 2 回目は 11/16 に開催予定。
- ・ 多職種人材育成研修会については、今年度第 1 回目は 12/16、第 2 回目は 2/10 に開催予定。事例をもとに自立支援に向けたプランを立てることができるように、そういった視点を持ちながらグループワーク等のアセスメントの向上が図れるような企画を予定していきたいと考えています。

＜資料：第 1 回 かけはしキッズ ～重症心身障がい児懇談会～＞

- ・ 11/3 に第 1 回「障がい児を持つ家族の集い」開催。
- ・ 在宅医療ということで考えれば幅広い年齢層～状態像の方に対して支援をしていくことであり、全年齢対応であることから開催されることになりました。
- ・ 詳細は資料をご参照ください。

(10) 東名古屋医師会における地域包括ケア推進体制の展望について
(C 委員)

＜資料：東名古屋医師会管内における在宅医療・介護連携推進事業の展望＞

- ・東名古屋医師会在宅医療コーディネートセンター（仮称）については、遅くとも年内に具体的なことを決定して、詳細を詰めて、委員会にはある程度具体的に報告できるようにしたいと思っています。来年4月に設置するに当たっては準備等も必要となりますので、なるべく早く調整していきたいと考えています。

＜資料：参考 尾張東部医療圏における在宅医療・介護連携推進の展望（平成30年度～イメージ）＞

- ・詳細は資料を参照ください。

＜資料：医療介護需要予測指数（2015年実績＝100）（日本医師会 地域医療情報システムより）＞

- ・詳細は資料を参照ください。

（11）その他

（B委員）

- ・これまで作ってきた地域包括ケアの推進体制とか組織を、もう一回地域課題～自らの街に何が必要なのだということ～をピックアップして、これに対して活動がどうあるべきか整理していただきたい。様々な会議や委員会ができてきていますが、これが一般的なものではなくて、この街の課題を解決するための組織であるという形で再編していかなければなりません。それを積極的にやっていただければと良いと感じました。
- ・地域包括ケアにおいて医療機関や医師の活動というのは極めて重要でして、この方々が参加しないというのはほとんど有り得ないことと考えられますので、この方々（医師）をいかにピックアップするかということが重要です。従来のように行政主導の会議であったり、場所が役所等とかの開催の会合とかでは、医師はあまり出て来ないのです。そういう時には、現場をどこかの医療機関等にして順番に回していくと動いてきます。大学などでも例えば医師に対して新しい医療機械を提案したいとして、何千人の会を外で企画してやっても誰も見てくれない～医師が出席してくれません。ところが同じ企画を大学病院の中でやって、ここで見てくださいというふうにすると、医師はたくさん見に来て企画が動きます。ですから是非医師の医療機関を上手く巻き込んで、そこで会議とかをやって、動いていく～回っていくというような

形をとると、医師が多数参加してきますので、そういう運営をしていただければと思います。実はそういう時に有用な情報を持っているのが製薬会社の方々です。今製薬会社においてはかなり特化した形のものが見えてきておりまして、具体的に言えば「エーザイ」は認知症に関することを徹底的にやっていますし、「協和発酵キリン」は糖尿病～腎疾患～CKD 慢性腎臓病を集中してやっています。こういった方々の協力を得ることも重要ではないかと思います。

- 皆さんのところで様々な講演や活動をしています、これを何らかの形でアーカイブ化すると良いと思うのです。DVD～ネット配信、オープンな形やセミクローズな形等で見るができるように、せつかく良い活動がありますので是非アーカイブ化していただければと思います。
- 本日D委員が発表されたようなデータは、ほとんど私たちでも見たことのない立派なデータなのです。この中のデータを細かくアンケート等を見ていくと、やはり医療機関がとにかく重要というのが勿論分かるわけで、医療機関があって包括が動くというのも分かるのです。その有りようがどう有るべきかが具体的に見えていますので、先ほどお話しした「皆さんの市町の取り組みをもう一度市町の課題に沿って考え直してください」ということの資料として、これを使っていただけたとかなりよく分かるのです。そういう意味でお互いに持っている情報を共有していくことで相当の方向性～効果のある良い方向性が出てくると思います。
- C委員が提示した医療介護需要予測指数の資料ですが、豊明市と東郷町の医療介護の需要の増加率を見てみると約1.5倍（2040年までに）です。これらの市町は耐えます。ですがこれを超えている長久手市と日進市は多分潰れます。これは医療経済的に分かっている、介護需要度が1.5を超えると根本的な改定をしない限りは社会が保たないのです。そうすると日進市と長久手市はかなり頑張らねばいけない。これは一市だけで頑張ってもダメなので、是非この状況を乗り越えるために、広域連携とか広域連合というものを上手く使って検討いただくと良いと思います。この数字医療経済の専門の方に見させると、1.5倍を超えたらもう破綻ですから出来ませんよとズバリと言われてしまいますので、そういった認識を持って次のプランにつなげていただければと思います。

(牧副委員長)

- ・厚労省は地域包括ケアシステムの構築の上位概念として地域共生社会ということ盛んに言い始めました。これは今まで高齢者対策だったのが全年齢対応になったということを踏まえてだと思います。その中で強調しておきたいことは三つの視点です。「人材をどうするのか」「実際における取り組みの評価をどうするのか」「財源をどうするのか」です。詳細は厚労省のホームページ等がありますが、人材に関しては「ソーシャルワーカー」の力を大きく評価しているようです。しかしながら、私は「ソーシャルワーカー」だけではなく、地域における「栄養士」がどうやって現場で活躍できるかを考えることが大きな課題だと思いますので、補足いたします。

次回開催日について（予定）

12月11日（月）午後2時～